色とりどりの
浮世絵が並ぶ
絵草子屋
江戸観光の
土産に
日々の娯楽に
読み切り繚乱
真夏のエロスカーニバル
EROS CARNIVAL OF SUMMER
軒を連ねるのは
浅草や明神前
そういう土地の店は
いっそう華やか
だった
『アウトブレイク・カンパニー』
完結から9ヵ月、江戸情緒
あふれる読み切りで登場!!
梶谷きり
えぞうしぞうし

娘さん 土産に
何枚か見繕って
くれないかい?

おいおい
俺のが先だ!

なあ
お松さんよ

お待たせしやした
なんでぇ
見送りはこっちのオカメかよ
てっ
うちの妹になんてこと言うんだよっ
いいのに

威勢のいいことだ
国芳の新作は入ってるかな
繁盛してんなよぉ おしの
どれ お松いるか
あれ 師匠
姉さんは今ちょいと客の相手しててね

うちの工房で働いてる庄次郎だ

自分が下絵を手伝った錦絵が並んでるのを見たいんだと

どれやった

この絵の小物をいくつか

……いいじゃないか

あのおしのはなぁ
元々はうちの工房の通い弟子だったのよ
お前くらいの年の頃だ
両親が流行り病で逝ってから
姉さんと二人で絵草子屋を継いだのよ
筋が良くてもったいなかったんだが……
まあ店も繁盛してるしな
お松の器量ばかり噂になるが品揃えも確かだ
そこんところおしのが上手くやってんのさ

あれで
もう少し
愛想が良けりゃなぁ
先生！

これを

パサッ
ふう
疲れた
くる
くる
ずいぶん
気に入った
みたいだね

岡惚れ客に入れ込んでもいいことないさ

江戸詰めの連中になんて吉原より安い女くらいにしか思われてないよ

描いてたのかめずらしい

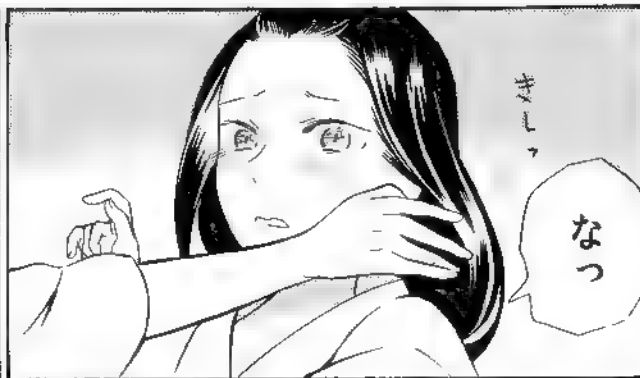
お前が筆いじるのも久しいね

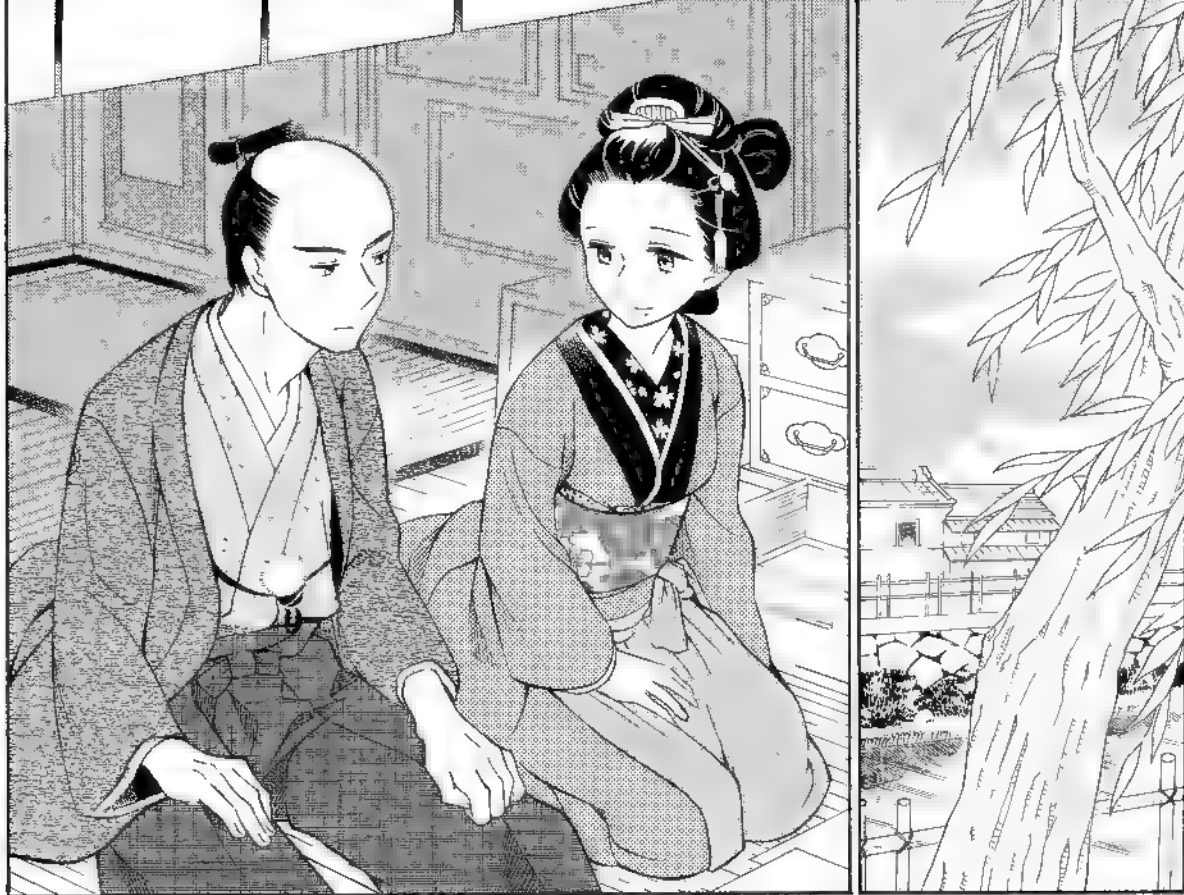
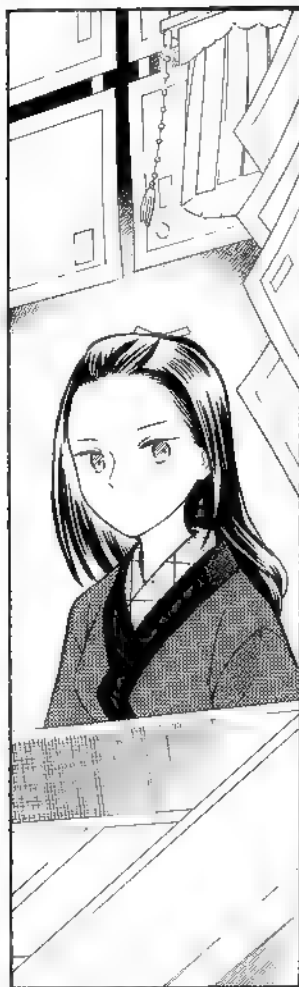
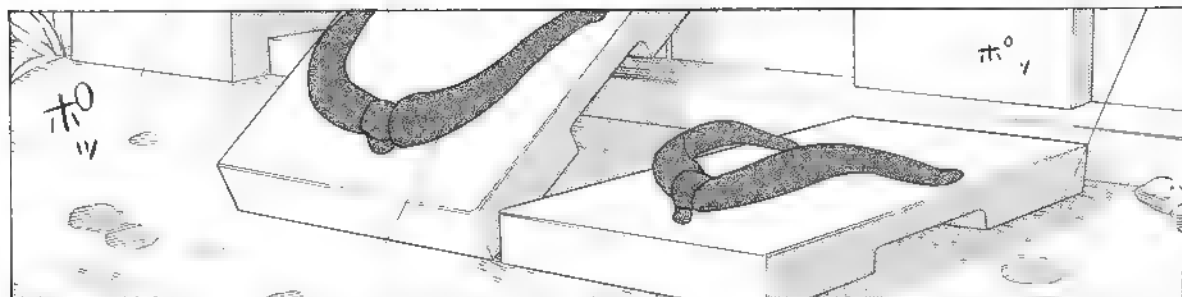
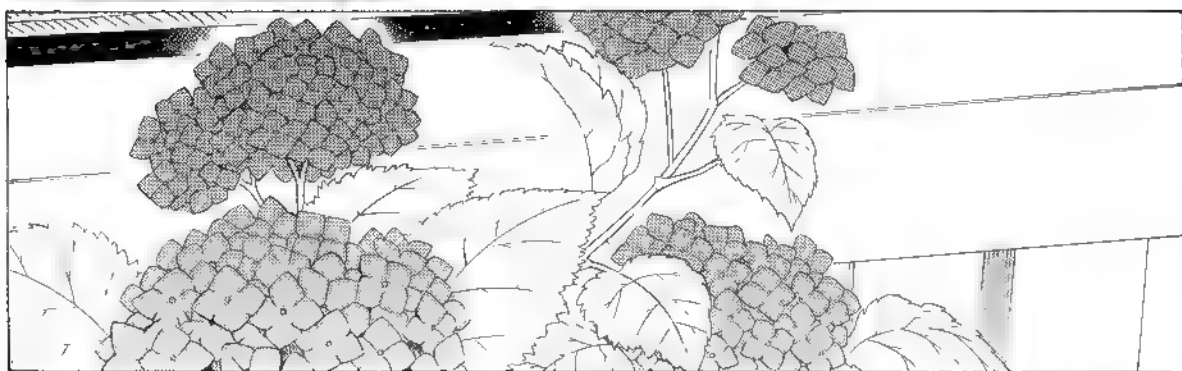
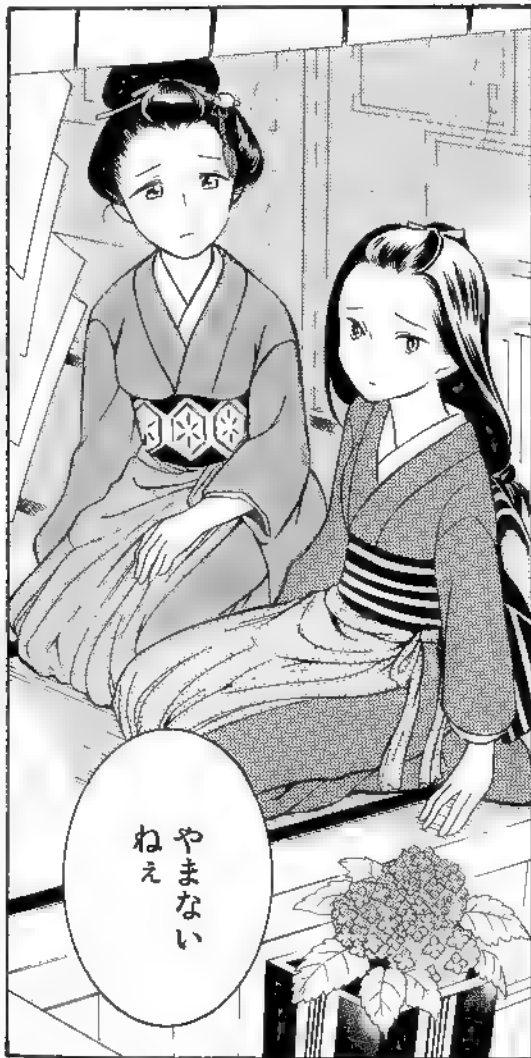
そういや昼間お師匠さんいらしてたか

やっぱり上手だね……
工房が恋しいかい?
言ってもせんないことだけどさ
もし続けられていたら
今頃は お前の絵が店先に並んでたろうね
辞めるしかなかったさ
10

姉さん一人では
店を回せないし
まだ下っ端の
私の稼ぎでは
暮らしていけなかった
二人であの店を
やってこうと
決めたじゃないか
あんた一人に
苦労は
かけないよ
一人で
苦に思うことも
ない

頼もしいよ
紙で切ったのか
きしっ
なっ
お前はちょっと働きすぎだよ

いいのに……
もっと女の人生を楽しんだらどうだい
髪も結って
化粧して着飾って
紅もさしてさ
紅はいいよ
うんと綺麗になる
男に好かれるよ
あれ
ゴレゴレ
男なんていいさ！

お前も
知れば
わかるよ
男の腕の中の
温かさを
私はっ

このままでいいんだ
このままあの店でずっと姉さんがいれば

なんにも
いらないさ
あっ

もう寝るんだから
いらないだろう

18

ポッ
ポッ

やまないねぇ

おしの
ザァァ
客も来ないしさ……

この雨でさっぱり
客が来なくてね

もう今日は
仕舞いにしよう
って姉さんが

あの侍と
いい仲なん
だってな
茶屋にでも
しけこん
でるん
だろうさ
やめときゃ
いいのに
身分が
違いすぎる
奥方には
なれねぇ

妾にするにも見栄ってもんがある
チリリ
ただの絵草子屋の売り子じゃなぁ

お松
考えてくれた
だろうか
琴を習うには
師が

ビビ
てっ
てんめぇ
ガラッ
銭投げおって
そば代だよ

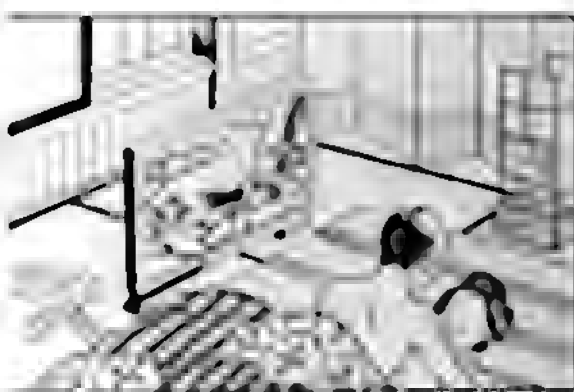
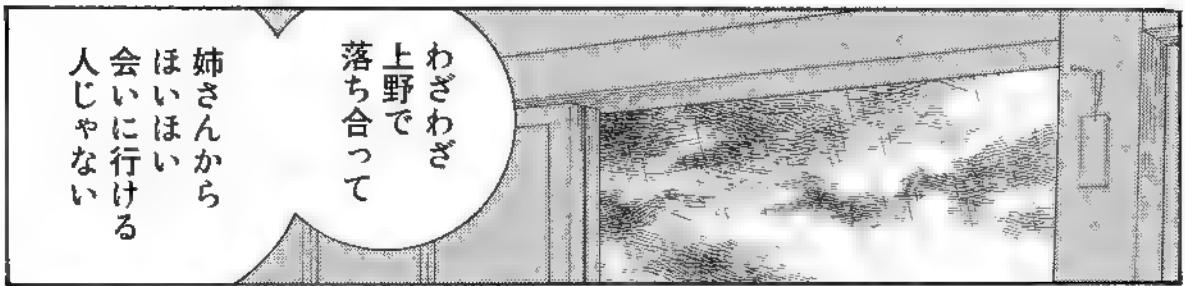
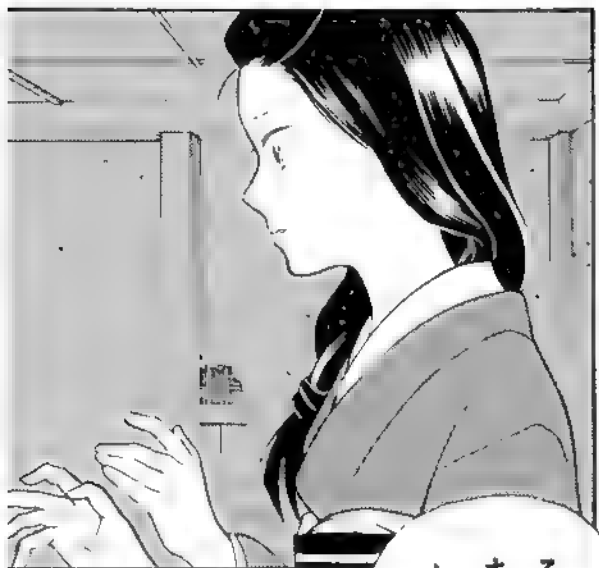
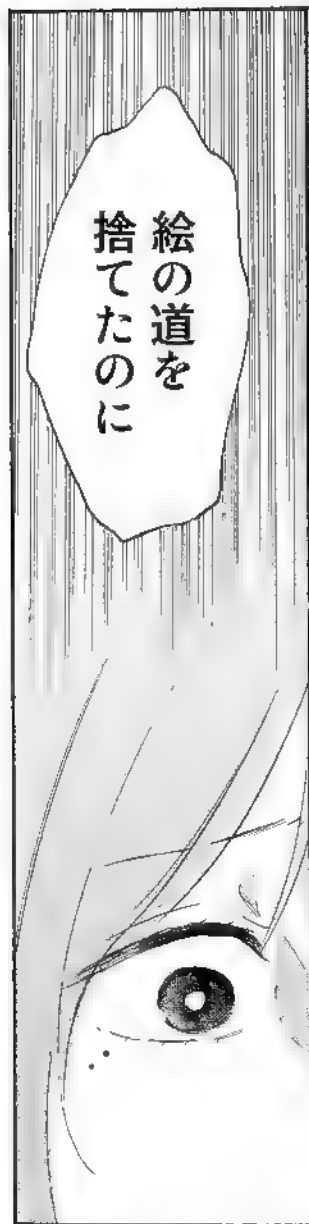
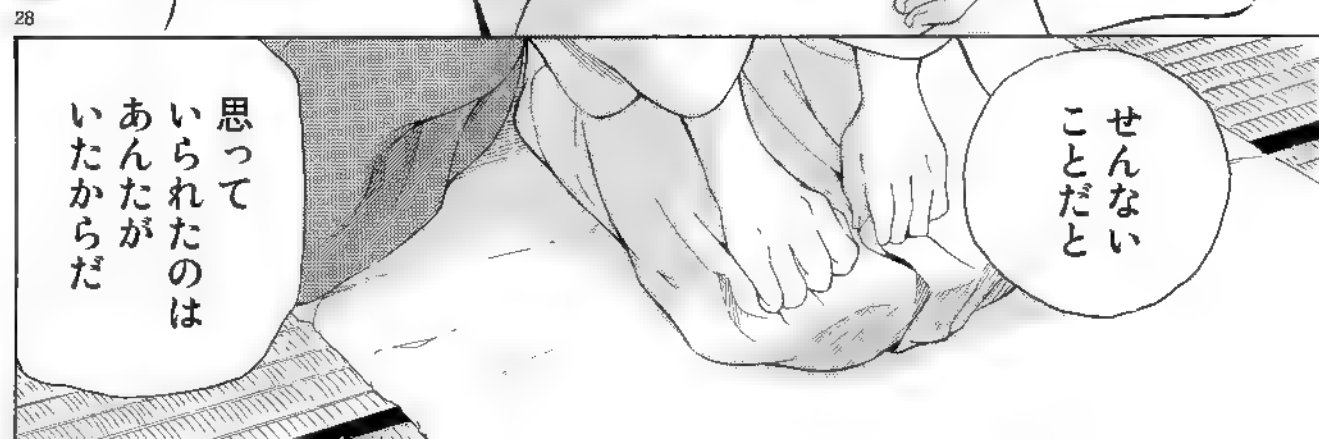
姉さん
寝てんのかい
あのお侍と
会ってたんだってね

毎月7日発売!
good!アフタヌーン

わざわざ上野で落ち合って
姉さんからほいほい会いに行ける人じゃない

前から約束があったんだろ
今日が雨じゃなかったらどうしてたんだい
店ほっぽり出して男んとこ行ったたか

何やってんだ!!
のそ…

27

色に溺れて商売おろそかにしてんじゃないよ！
うちらが食ってけるのも二人で回してるからだろう!!
そんなにあの男がいいのか
あんな
一年したら故郷に帰っちまう男なんか

しの……
絵の道を
捨てたのに
せんない
ことだと
思って
いられたのは
あんたが
いたからだ

あんたに
とっては
その程度か

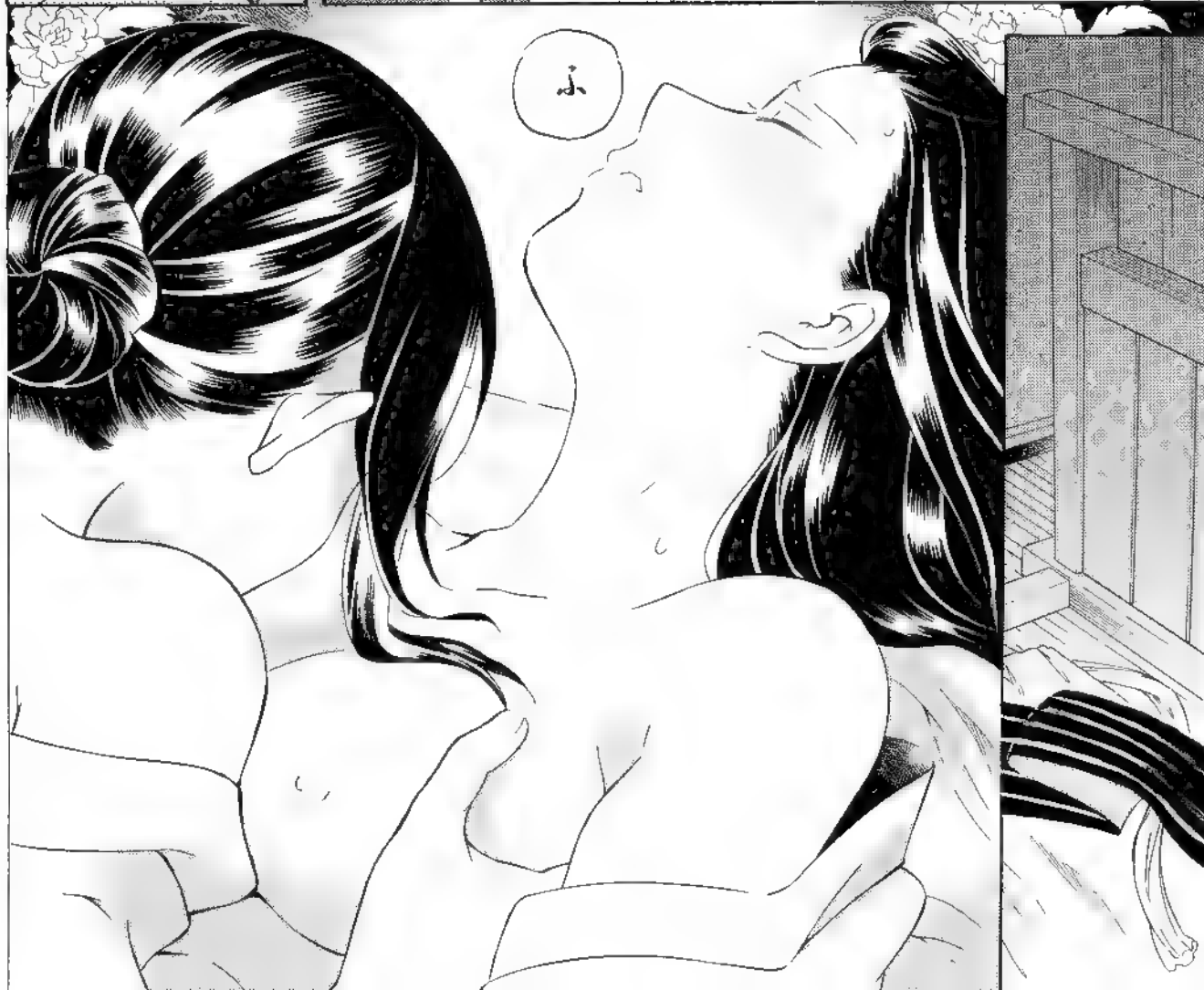
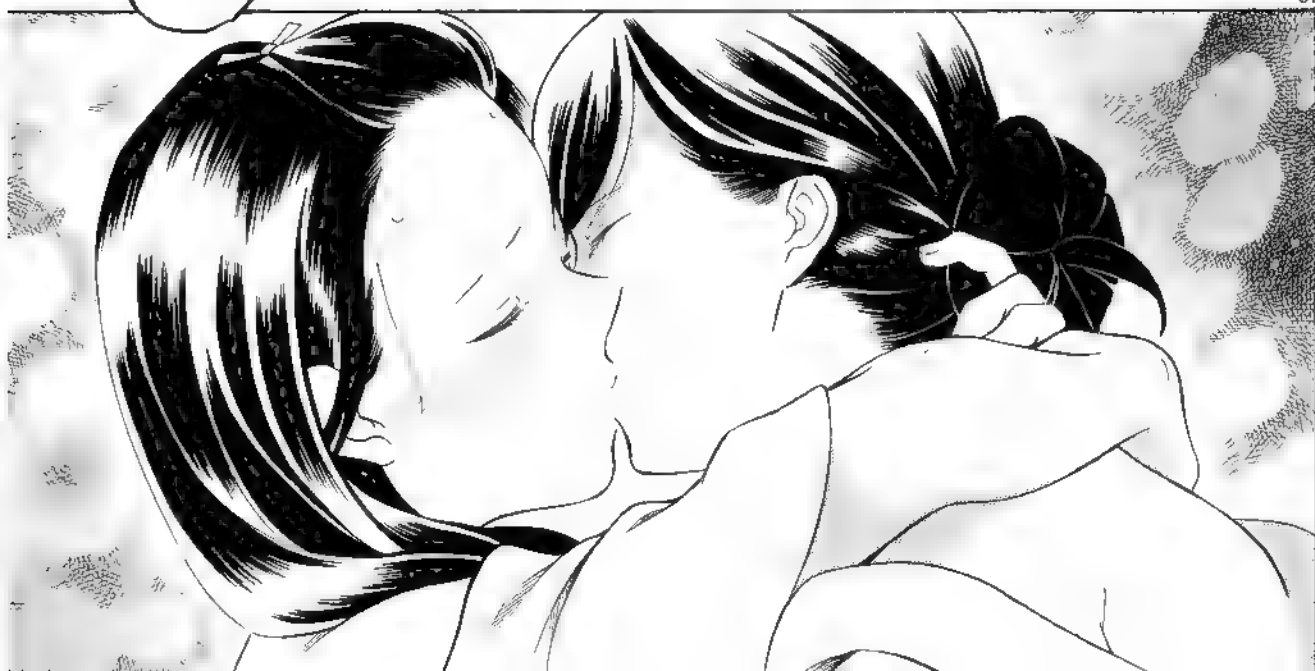
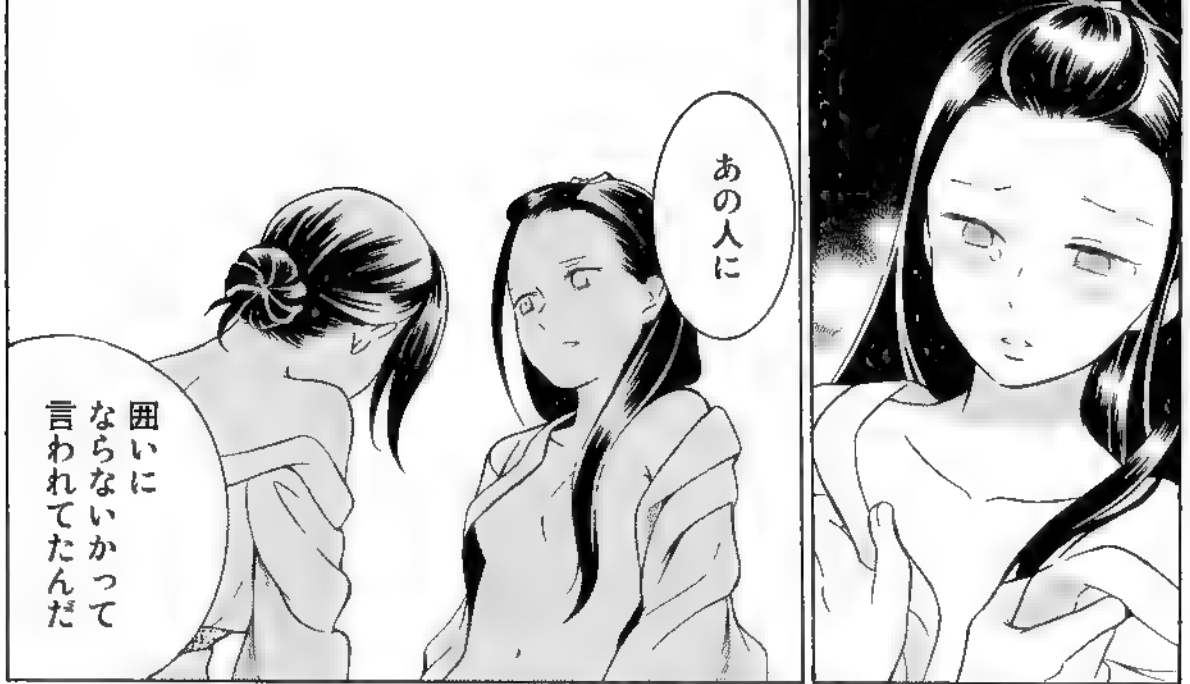
私は

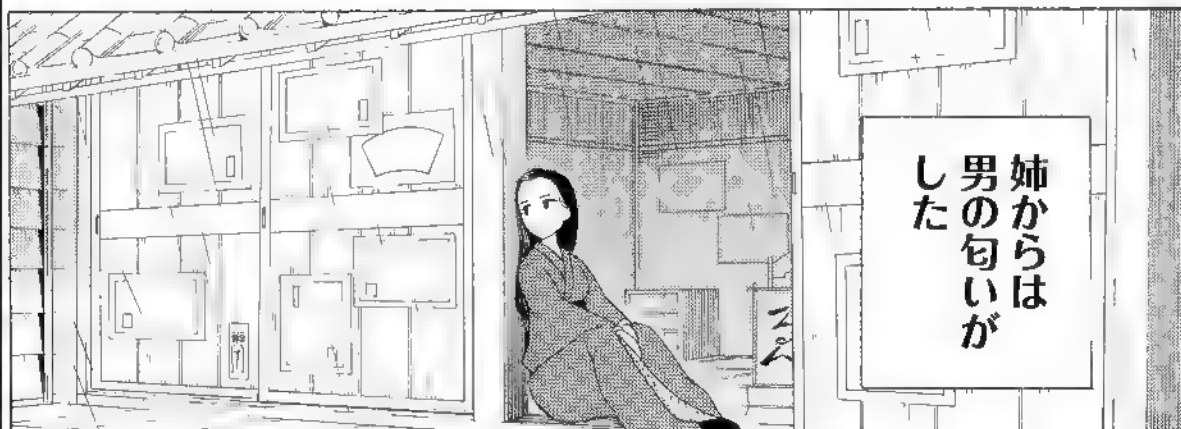
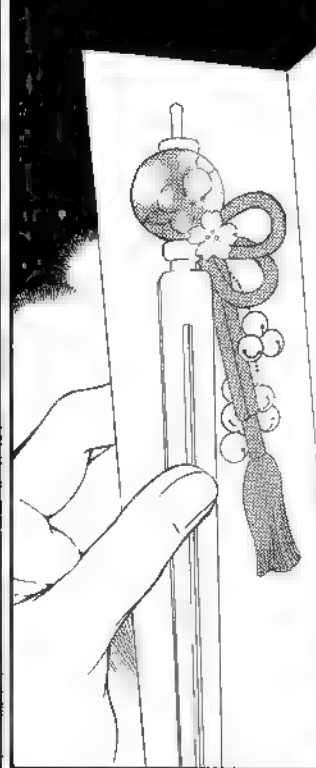
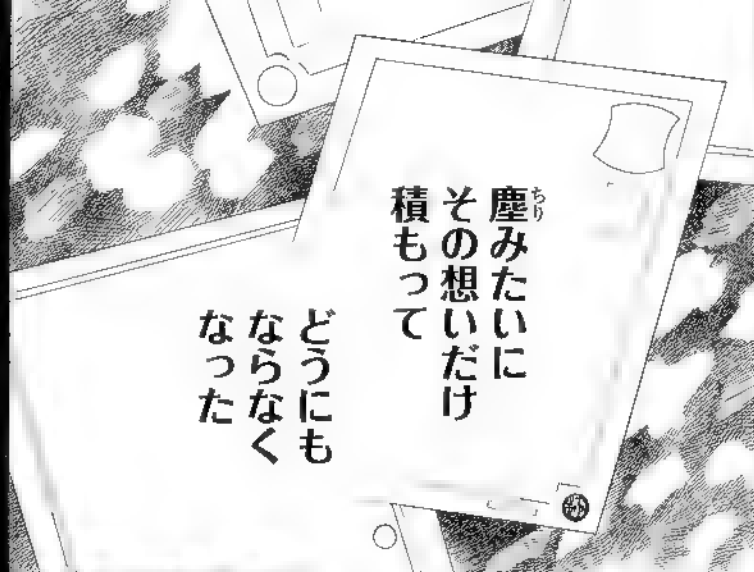
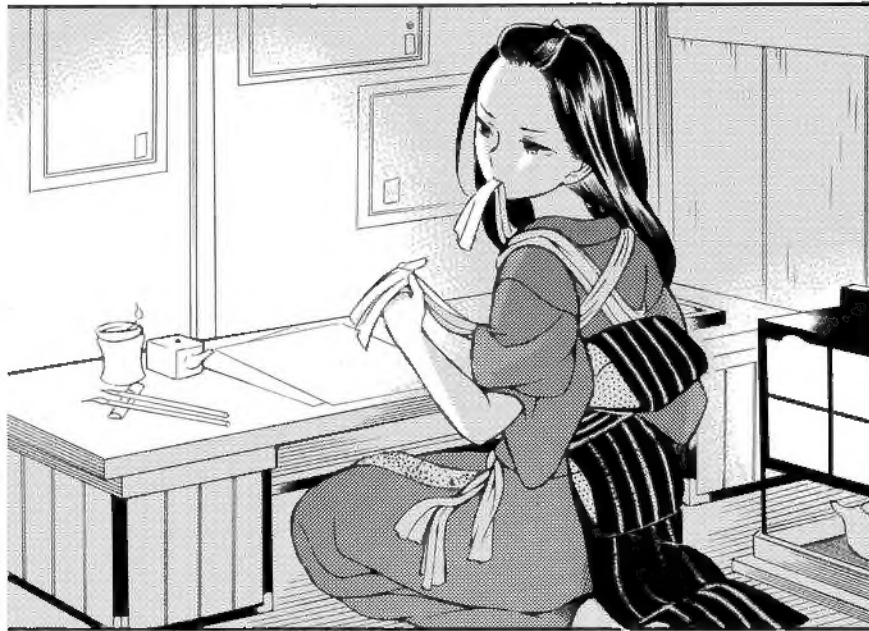
私は
ずっと
あんたを

知ってたよ
ふ

う
うあ
あっ

姉さん

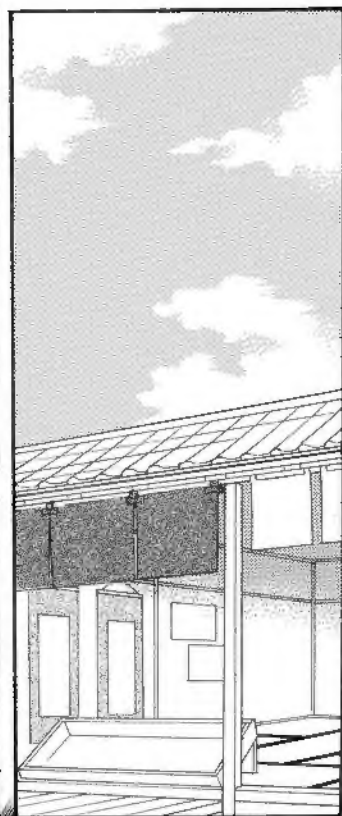
あの人に
囲いに
ならないかって
言われてたんだ
でも
断って
きたよ
お前を
一人には
できない
からね

たった一人の妹だもの
でもそれしかしてやれないよ

作者近況
梶谷きり
久しぶりの掲載です。たくさんアイス食べて元気を出しながら描きました！

あの男の匂いだ
姉さんの肌にうっすら残った香り
汗と肌と香すべてが混じった匂い

報われないのはわかっていたのに
だけど私は諦めた
姉さんのために諦めた

塵みたいにその想いだけ積もって
どうにもならなくなった
……未練だね

あの店が
姉さんが
すべてだった

すっ
お前 こっちに 泊まってたのか
あの侍から 文だよ
会いに 行きなよ
茶屋で 待ってんだろ

翌年
最近お松さん見ないと思ったら
潰れちまったんか
そこの美人なら男と江戸を出たって聞いたよ
うちにも新作たくさん入ってるよ
へえ
めずらしいね黒子のある美人画なんて
この人の作はいつもこうさ
姉への想いは筆に乗せ――。
えぞうしぞうし/おわり
梶谷きり氏の再登場にご期待ください!!